

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2891500122		
法人名	医療法人 いちえ会		
事業所名	グループホーム いちごの家・上物部		
所在地	兵庫県洲本市上物部951番地1		
自己評価作成日	平成24年10月 9日	評価結果市町村受理日	2013年1月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.net-kawani-shi.com
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	2012年11月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人ひとりの思いを尊重し、個別に支援している。毎日がゆとりのある生活ができ、安心して過ごせるよう努めている。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昨年夏に開設されたばかりのホームであるが、法人としては地域医療に貢献してきた歴史があり、昨今は医療と福祉の連携を視野に入れ、「一期一会」の理念を通して一人ひとりの尊厳を重視することを実践している。その中でも認知症に関する理解と啓発には力を注ぎ、出来るだけ自立した生活ができるよう、家族への支援をしながら共に支えている。そのために職員の自主性を育て、レベルアップのための研修には、法人としての協力を惜しまず、積極的に学べる環境づくりにも努めている。さらに認知症の理解を深め、一人ひとりの暮らしを大切にしたいあたりまえの生活を、地域と共に目指そうとしている。地域住民からも必要とされる地域に根付いた我が家となるべく今後の発展を期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念である「一期一会の心を持って…」の一期一会を念頭に置き、利用者・家族・地域住民との出会いを大切に思い実践につなげている。	法人理念に沿い、利用者一人ひとりとのコミュニケーションの時間やふれあいを大事にしている。業務優先ではなく職員間での連携により、本人の意思を尊重する支援に努めている。会議や引き継ぎ等で些細な情報も共有するようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	納涼祭など同法人内での行事参加を通して交流を図っている。地域の清掃にも参加し散歩時は挨拶を交わし会話することもある。	自治会に加入し、地域の季節行事には利用者の希望に応じて参加交流している。特に年に2,3回ある清掃活動には、利用者も積極的に参加している。隣接の畑の手入れや散歩時には、自然に挨拶を交わしている。	少しずつ地域に浸透しつつあるが、地域との双方向の交流機会をさらに広げていられることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議での議題として利用者様の訴え時の対応法・対応後の様子などを話し合っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域、市、家族の助言や要望などを聞き、サービスの質の向上に努めている。	町内会長、民生委員、家族の会代表等が参加して2か月ごとに行われている。参加者からは地域の情報提供、事業所からは利用者の様子を通じホームの理解を務めている。利用者からの訴えへの対応方法など、認知症への接し方についての実践方法を、紹介することもある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にてホーム内の課題、実情を伝え相談している。	開設時より、現状を知ってもらうためにパンフを持参するなど こまめに訪問するように努めている。こちらから気軽に相談できるよう、日頃から情報交換するようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	居室の扉の鍵は利用者が望まない限り鍵をかけない。玄関の鍵は、時間を決め開錠している。	法人内研修をはじめ各会議等で、職員は定期的な学んでいる。玄関はセンサーが設置されており、必要に応じて開錠している。	利用者が感じる閉塞感だけでなく、訪問者にとっての違和感等もあり得るのではないだろうか。見守りの工夫や開錠時間の検討等を期待したい。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部での研修会、同法人内の勉強会へ参加しており、参加した職員は後日、全職員に公表している。	法人内による接遇研修で、具体的事例、例えば入浴、排せつ、夜間等での利用者間との言葉づかいについて、実践的に学んでいる。慣れ慣れしくならないよう、常に意識を持つようにしている。管理者は、職員の心身状態にも日頃から心配りを心がけている。	

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部での勉強会などへ参加し、必要な方には資料を提供し説明している。	管理者は、制度や必要性において十分認識し、契約時には、必要に応じて家族に説明している。職員は、制度の理解にいたっては、まだ十分ではなく、今後の検討事項としている。	職員にとっても、制度理解や周知は必要と思われるので、研修計画に盛り込まれてはいかかがか。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族の不安や疑問に対し解りやすく説明しカンファレンスを行い対応している。解約又は改定の際は資料を変更し、詳しく説明している。	重度化した場合の利用についての不安や、必要とされる費用についての疑問等、別途わかりやすい資料を用意し、理解を得ている。納得してもらえるまで、十分時間をとるようにしている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面会に来られた時に困っている事、要望などを聞き取りカンファレンスを行い対応している。運営推進会議に出席された家族には意見や要望を発して頂くよう努めている。	家族来訪時にはこちらから声をかけ、気軽に話しができるよう時間を設けている。運営推進会議内では、感じたことや、疑問等についても積極的に話してもらうよう促している。ホーム独自の家族アンケートも実施し、参考にしている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回カンファレンスを開き意見交換している。管理者は常に全職員とコミュニケーションをとり意見を提案できるような雰囲気をつくり、提案していただき実践に反映させている。	管理者は会議等では、できるだけ全職員が意見を発せられるよう積極性を促すとともに、日常的に職員からの意見や提案を吸い上げる働きかけも行っている。行事企画等は、職員の分担制により個々の特性が活かされる内容となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に伴い、手当等支給や昇格を実施している。管理者は全職員の勤務状況を把握し、向上心を持って働けるよう目標を設定し勤務できるよう整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修(月2・3回)の研修にできるだけ多くの職員が参加している。実践者研修には、今後参加するよう努めていく。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	入所申込者等の確保、情報提供を定期的に通話を取り、交流を図っている。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所申込み時や契約時は、丁寧に本人や家族への聞き取りを行い、ケアプランには本人の要望を聞き入れている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアプランには本人、家族の要望を取り入れている。家族との外出時の様子、困ったことを尋ね、家族が安心して過ごせるような関係づくりに努めている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約時に本人、家族に移行を聞き状態を見極め対応している。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の思いを尊重し、毎日が安心して暮らせるよう実践している。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院への受診など、できるかぎり家族にお願いし外出の機会をもうけ、家族と職員が相談し協力し合い支援している。		
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで暮らしていた近隣の方が面会に来て下さっている。散髪や病院など今までの環境を変えず、家族と共に支援している。	自宅に帰ったり、家族と共に外出するなど、家族の協力も得ながら、これまで以上に関係性を深められるよう支援している。馴染みの理美容や店をこれまでどおり利用することで、地元住民との関係性も継続できている。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々、生活する上で、利用者同士が張り合う気持ちを持って、協力し生活できるよう努めている。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所の次の行先を把握している。入院された方には、かぞくに常にれんらきを取り困ったことを聞きアドバイスしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活で会話を聞き希望、以降を把握している。意思疎通が困難な方には、家族に希望を聞き取り、日常生活での会話、表情を観察し把握するよう努めている。	職員が日頃の会話や様子からその人の思いを推し量り、担当者が集約し、全職員での把握、統一した支援に努めている。声かけのタイミングやニュアンス等についても注意をしている。利用者同士の関係性も参考にしながら思いを汲み取るよう心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者、家族から入所前に生活歴など情報を頂いている。施設からの入所の方は、サービス担当者から情報提供して頂き、その人らしい生活ができるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の有する能力、現状況の把握に努め、随時カンファレンスを行い、変化に対応できるよう実践している。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の評価を家族に報告し、新たな意向や希望を伺い、ケアカンファレンスにて職員間で検討している。	本人の普段の生活の中で、自ら進んで楽しめるような趣味ややりがいなどが活かせることを目標にした計画を目指している。担当者が中心となって利用者の情報を集約し、家族と相談のうえ家族の意向も反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケアの実践・結果・気づき・工夫を詳しく個別記録し、業務日誌にも記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者が地域で、その人らしく生活できるよう支援している。		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣接施設の子供と交流し、楽しく生活できるよう取り組んでいる。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族が希望する病院で受診している。受診は家族にお願いし、受診前に利用者の様子を伝えている。	入居前のかかりつけ医の受診を継続している。定期受診は家族が行っており、利用者に会いに来る機会もなっている。受診時にバイタルと普段の様子や変化を事業所から伝えるようにしている。受診の結果に関する情報は家族から聞き取り、適切な受診の支援がなされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護師に相談し、連携を取っている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、担当医・看護師・介護士から情報収集し、家族と連絡を取り、安心して治療を行えるよう努めている。	管理者が見舞いに行き、病院関係者、家族との連携と状況把握を行っている。早期退院に向け、福祉用具の活用や状態に応じた夜間の頻回な見守り等の提案も行っている。入院予防の観点から、体操や長い廊下の歩行等に積極的に取り組んでいる。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、週末期のあり方について、事業所のできることを十分に説明し、家族の意向を聞き話し合っている。	看取りの指針を作り、契約時に同意を取っているが、未だ看取りは行っていない。事業所が対応できる終末期の支援方法等の具体的な体制作りは行われておらず、今後の課題である。	今後利用者や家族のニーズを汲み取りながら、体制作りがなされることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内で定期的に勉強会や訓練を実施している。全職員が初期対応できるよう指導し、身に付けている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設施設での火災訓練に参加し、事業所でも火災訓練を実施した。地震・水害の避難場所、避難方法を身に付けている。	事業所独自で夜間想定避難訓練を行い、母体法人の避難訓練にも参加している。年1回広域の自衛消防隊の合同訓練にも参加している。地形上、水害の危険もあり、日常の散歩で近くの指定避難場所まで歩いている。法人で備蓄している。近隣への協力の働きかけはなされていない。	運営推進会議等で、近隣への災害時の協力の働きかけについて検討してはどうか。

自己	者 第	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報や写真掲載については、契約時に説明し同意を得ている。	トイレの失敗等は他の利用者にわからないよう声かけして、羞恥心への配慮がなされている。利用者の拒否がないので同性介助にこだわっていない。今までの生活スタイルを尊重し、性格も把握して声かけする等、その人らしさの支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者とコミュニケーションを取り、利用者の希望に出来る限り応えるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間・入浴時間などに決まりはあるものの、利用者一人ひとりのペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類等、利用者を選択していただいている。外出時には化粧をされる方もおり、身だしなみも声かけし支援している。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材切り・調理・盛り付けは、声かけし一緒に行っている。後片付けは、利用者が率先し取り組んでいる。行事や誕生日などでは献立の希望を聞き提供している。食べられない食材・メニューについては、個々で変更している。	品数を多くし、偏らないメニューが工夫されている。食材は職員が近くの店へ利用者同伴で買い物し、下ごしらえや調理、後片付けも一緒に行っている。職員も共に食事している。外出も兼ね、年4回ほど外食にも出かけ、食事を楽しむ支援がなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は利用者の状態に合わせて調節している。利用者により水分チェック表へ記入し水分量の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者一人ひとりの能力に応じた支援を行っている。義歯の方には、毎晩 義歯を消毒液に浸けている。		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけ誘導して排泄の失敗、おむつの使用を減らすよう支援している。	トイレ誘導は2名で他は自立している。夜間は職員が物音で察知し、転倒等がないよう見守りしている。職員で検討、連携して紙パンツから布パンツに移行した人もいる。行事は事前にトイレをチェックして、行き先を考える等排泄の自立が支援されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩など運動し、十分な水分補給をして頂き、一人ひとりのチェック表に記入している。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は希望により毎日入浴される方や希望された時に入浴できるよう努めている。お湯の温度や入浴時間は、一人ひとりの希望を聞き支援している。	浴槽のまたぎの難しい人も利用できる最新式の浴槽で、利用者ごとにお湯を変え、気持ちよく入浴できている。入浴時間、回数はできるだけ希望に応じ、ゆっくり、好みの湯温で入浴が楽しめている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、良眠できるよう日中は散歩や家事などで活動している。無理強いせず、毎日の体調や気持ちに合わせて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの薬剤情報提供表にて全職員が把握している。服薬管理できない方には、職員が手渡し服薬確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホーム横の畑にて野菜作りをしており、水やり収穫などしている。一人ひとりの生活歴を家族より聞き、趣味(編み物など)や楽しみごとに取り組んでいる。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事などで利用者の行きたい場所の希望を聞き外出支援している。家族の方も外食や実家へ行くなど協力して下さっている。	毎日散歩に行っており、洗濯物干し、隣の敷地にある畑、食材の買い物等日常的に外出が支援されている。地域のお祭りに歩いて行ったり、外食に出かけたり、家族の協力も得て、事業所の中に閉じこもらない生活ができている。	

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理できない方については家族より預かり、買い物時の支払いは自己にて支払って頂くよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族などから荷物や手紙が届いた時など、利用者が電話をしたり手紙を送れるよう支援している。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや廊下に季節を感じる作品や植物を飾っている。テレビの音や日差しが不快感を感じさせないように常に気をつけている。	共有スペースとウッドデッキで保育所がつながっており、子どもたちの遊んでいる姿もみえる。畳敷きのコーナーやゆったりテレビを見る場所もあり、壁に行事の写真や手作りの作品も飾られている。浴室、トイレが広く、敷地内に子どもたちの運動場、利用者が野菜作りを楽しんでいる畑もあり、閉塞感のない環境が整備されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、食卓椅子、畳の間で利用者が、それぞれ穏やかに思いのまま過ごせるようにしている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりが必要品、好みの物を持ってこられている。ホームでの写真や家族との写真を居室に飾っている。	居室は隣の部屋と順番に床の色が濃淡にデザインされており、各自の部屋のドアには動物等の絵が表札代わりに貼られている。居室内には洗面コーナーと広い押入れ、掃出しのある窓から周りの家や山畑が見え、季節が感じられる。テレビ、ラジオ、訪れる孫の小さな椅子が置いてある部屋もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの能力に応じて声かけや目印をつけ、安全に生活できるよう常に心がけている。		